リウマチ性疾患ケア指導患者名簿　看

患者番号	施 設 名	性別	年代	診断名	主なケアと指導の内容 (画一的でなく、症例毎に個別的に記載)
1	リウマチ財団病院 リウマチセンター	男 ・ 女	30 歳代	RA	日常生活上の留意点、異常時の対応と家族への対応、今回は特にMTX誤内服の説明を行った。
2	ザイダン クリニック	男 ・ 女	70歳 代	RA	肺合併症（間質性肺炎）の状態を担当医と共有し、治療の再開について分かりやすく説明した。治療開始後は、自己管理と感染予防の具体的方法を説明。
3	リウマチ財団病院 整形外科	男 ・ 女	50 歳代	RA	TKAの入院、手術に対する不安の軽減、術後のリハビリの重要性と退院後の自宅リハビリについて他の医療職と連携して指導。
4	ザイダン クリニック	男 ・ 女	40 歳代	痛風	痛風発作時の頓服薬の使用法、生涯治療の必要性の説明、生活習慣の是正の支援を行う。
5	リウマチ財団病院 内科	男 ・ 女	20 歳代	SLE	紹介治療入院であり、疾患受容と共生の方法を患者の不安、悩みに配慮して指導・支援。
6	リウマチ小児科 医院	男 ・ 女	10 歳代	若年性特発性 関節炎	小学校高学年児であり、院内学級での学習支援、母親へ成長障害の不安へのケアを行う。
7	リウマチ財団病院 整形外科	男 ・ 女	40 歳代	線維筋痛症	認知行動療法実践の支援、相談、説明、患者会への参加、患者交流会への参加を促した。

8	リウマチ内科医院	男 ・ ㊛	50 歳代	シェーグレン 症候群	根治療法がなく、対症療法しかない点での不安、受診中断傾向に対して、保険薬局薬剤師と連携して一課題ずつ指導。
9	リウマチ財団病院 リウマチ外来	男 ・ ㊛	40 歳代	RA	生物学的製剤（ETN）の有害事象への不安から治療選択が困難となっていることに対して、患者の不安を傾聴し、薬剤師と連携して情報提供とケアを行った。
10	リウマチ財団病院 リウマチ外来	㊚ ・ 女	30 歳代	多発血管炎性肉芽腫症（ウェゲナー肉芽腫症）	希少難病への不安と長期入院による焦燥感に対して、院内臨床心理士と連携して指導とケア。

申請者氏名　　財団　花子

※患者番号1～３については、RA（関節リウマチ）を記入してください。

※同一施設内において、他の申請者と同一症例を担当した場合であっても、対象患者とすることは可能です。ただし、その場合は、自身が担当した内容について個別性をもって記載してください。他の申請者と同一内容の記載は認められません。

※本申請に記載可能な略語は、次の通りです。下記以外の病名や薬物名の略語の使用はできませんので、下記以外の略語を使う場合は、初出箇所に full spelling と略語を記載し、以降は略語で記載して頂いて結構です。
（例：治療薬としてはMTXにトファシチニブ(TOF)を追加した。TOF併用により・・・・・）

【病名】

OA：変形性関節症（osteoarthritis）
RA：関節リウマチ（rheumatoid arthritis）
SLE：全身性エリテマトーデス（systemic lupus erythematosus）

【薬物名】「日本リウマチ学会リウマチ学用語・WEB検索」（https://www.ryumachi-jp.com/yougo/search.php）参照

・副腎皮質ステロイド（グルココルチコイド）
　PSL：プレドニゾロン
・従来型抗リウマチ薬（csDMARDs）
　BUC：ブシラミン
　LEF：レフルノミド
　MTX：メトトレキサート
　SASP：サラゾスルファピリジン
　TAC：タクロリムス
・生物学的製剤（bDMARDs）
　ABT：アバタセプト
　ADA：アダリムマブ
　CZP：セルトリズマブ　ペゴル
　ETN：エタネルセプト
　GLM：ゴリムマブ
　IFX：インフリキシマブ
　TCZ：トシリズマブ